

松嶋夜話 卷之上 13

〔原文〕松嶋夜話卷之上

〔訓読〕松嶋夜話 卷の上

〔原文〕松嶋瑞巖沙門天嶺著

〔訓読〕松嶋瑞巖の沙門天嶺著

※天嶺：天嶺性空（一六七〇～一七四〇）。通玄法達禪師に幼少期より師事。父は安積伊東氏十九代の伊東重良である。伊東重良は、伊達騒動で斬首の刑に処された伊東重孝（親戚）に
関与した罪で島流しにあり、伊東家は事実上断絶した。

〔原文〕家語曰

〔訓読〕家語曰く

〔原文〕與善人居如入芝蘭之室

〔訓読〕善人と居すれば芝蘭の室に入るが如し

※芝蘭之室 香草のある室。善人の喩。「孔子家語、六本」與善人居、如入〇〇〇〇、久而不聞其香、即與之化矣。

〔原文〕久而不聞其香與之俱化也

〔訓読〕久しく其の香を聞かざるも之と俱に化するなり

※久そそ？

〔原文〕吾在福浦亦然

〔訓読〕吾が福浦に在も亦然り

〔原文〕心性全雖曰不住薩婆海

〔訓読〕心性全く薩婆海に住ませずと曰くと雖も

※薩婆海：薩婆若海（さばにゃかい）？一切を知る仏の智慧（薩婆若）を海に喩えた語。天台法華宗義集 教門一乘義 「於十地位事理既融、自在流入薩婆若海」

〔原文〕而身識已與海水澄而已

〔訓読〕身識已に海水と澄めるのみ

〔原文〕松嶋江干有福浦島

〔訓読〕松島の江干に福浦島有り

※江干：かはばた。江のふち。「蘇頌、長樂花賦」賓遠鴻於沙塞、叫離鶴於〇〇。
※福浦島：宮城郡松嶋町松嶋にある島。直径三三〇メートル。

〔原文〕島中有毒龍庵

〔訓読〕島中に毒龍庵有り

〔原文〕庵前有坐禪石鍔字松

〔訓読〕庵前に坐禪石、鍔(ばん)字松有り

※鍔(ばん)字松？

〔原文〕庵外有月見濱三神峯

〔訓読〕庵外に月見濱、三神峯有り

※月見濱：宮城県東松島市にある。松島湾の宮戸島の南端に位置する浜。

※三神峯：宮城県仙台市太白区に位置する地名。

〔原文〕原斯地洞水祖翁最初修行地

〔訓読〕原(も)と斯の地は洞水祖翁最初の修行の地なり

※洞水祖翁：洞水東初和尚のこと。臨済宗妙心寺派の僧侶で、現在の宮城県松島町にある瑞巖寺の再興に尽力した。

〔原文〕厥后通玄先師之来掩關

〔訓読〕厥の後、通玄先師之(ここ)に來りて關を掩ふ

※通玄先師：通玄法達禪師(勅諭大照智光禪師・妙心寺二百六十五世・瑞巖寺一〇三世)。瑞巖寺のある松島に生まれ、禪傑雲居希膺禪師から直接教えを受け、更に瑞巖寺百世洞水東初(大機円応禪師)に参禅し、全国を行脚してひたすら修行し、大本山妙心寺を歴住し、元禄十六年(一七〇三年)に瑞巖寺の住職になる。

〔原文〕有口占偈

〔訓読〕口占の偈有り

※口占：口ずさむこと。また、詩文などを即席に口ずさむこと。南海先生文集、三・湘雲居六題并序「平居凡百無蓄、庭中惟有六物、亦未經題詠、今春伏枕人事寂絶、遂〇〇成六律云」

〔原文〕自遣曰

〔訓読〕自ら遣って曰く

※自の読みの「ミ」？

〔原文〕幻幻時離幻世

〔訓読〕幻幻の時、幻世を離れ

〔原文〕空空空處卜空齋

〔訓読〕空空空の處、空齋を卜す

〔原文〕松根月下坐禅影

〔訓読〕松根月下坐禅の影

〔原文〕寫出巖中須菩提

〔訓読〕寫し出す巖中の須菩提

※須菩提：Sudhanaの音写。善現・空生とも。釈迦十大弟子の一人。無諍第一、空の理解の深かったことから解空第一と称された。スプーティ。

〔原文〕偈聿零叢社

〔訓読〕偈聿に叢社に零（お）つ

〔原文〕偶有誦者

〔訓読〕偶たま誦する者有り

〔原文〕復此島有不運尊

〔訓読〕復た此の島に不運尊有り

※「運」は「動」の古字

〔原文〕智證大師手彫

〔訓読〕智證大師の手彫なり

※智證大師：円珍。平安時代の天台宗の僧。天台寺門宗（寺門派）の宗祖。諡号は智証大師（智證大師）。宝号は「南無大師智慧金剛」。唐で学んだ入唐八家（最澄、空海、常暁、円行、円仁、恵運、円珍、宗叡）の一人。

〔原文〕傳言源氏義経從臣

〔訓読〕傳に源氏義経の從臣と言う

〔原文〕辨慶守護尊也

〔訓読〕辨慶が守護尊なり

〔原文〕且島奥有三神山

〔訓読〕且つ島の奥に三神山有り

※「三神山」は三神峯？三つの神の山（仙台の西の戸神山と女戸神山ともうひとつ）？

〔原文〕鎮熊野三社

〔訓読〕熊野三社を鎮す

〔原文〕法身開禪時天台衆徒籠茲調伏副將軍時頼

〔訓読〕法身禪を開く時、天台の衆徒茲に籠り、副將軍時頼を調伏す

※時頼：北条時頼（一二二七～一二六三） 鎌倉幕府第五代執権。泰時の孫。一二四六年に執権となり、北条氏の独裁体制の基礎をかためた。また、禪宗を深く信じ、蘭溪道隆を宋からまねいて建長寺を建てた。

〔原文〕從是日調伏壇

〔訓読〕是れより調伏壇と曰ふ

〔原文〕復土宜有櫨木檀木數十章

〔訓読〕復た土宜に櫨木、檀木數十章有り

※土宜：土地に適する農作物。〔周禮、夏官、土方氏〕辨土宜・土化之法。〔注〕土宜、謂九穀植穉所宜也。

※「章」？

〔原文〕又有梅有椿有櫨有榿

〔訓読〕又梅有り、椿有り、櫨（しきみ）有り、榿（かや）有り

〔原文〕春風蜚香

〔訓読〕春風香を蜚（と）ばす

※「蜚」は「飛」に通じる

〔原文〕且竹龍千萬竿翠密鬱乎

〔訓読〕且つ竹龍千萬竿、翠密鬱乎たり

※竹龍：水を引く竹で出来た筒。「舒亶有詩曰、門前屏嶂繞潺湲、付與林僧夜定還。松蓋作雲連十里、竹龍行雨出千山」

※翠密（すいみつ）：青々と茂る。又、其の草木。「王勃、遊廟山賦」菌軒丹絢、芝場翠密。「宇文虛、

中夏詩」翠密圍窗竹、青圓貼水荷。

※鬱乎（うっこ）：草木のしげるさま。「蘇軾、前赤壁賦」山川相繆、鬱乎蒼蒼。

〔原文〕而今星移庵廢

〔訓読〕而今、星移り庵廢す

〔原文〕近頃余悛之

〔訓読〕近頃余之を悛（あら）たむ

〔原文〕因此秋款待太守藤公

〔訓読〕因りて此の秋、太守藤公を款待す

※藤公：不明

〔原文〕公席上召畫師

〔訓読〕公、席上に畫師を召す

〔原文〕展素絹

〔訓読〕素絹を展(のべ)て

〔原文〕圖出洞祖坐禪石之樣體泊福浦景致

〔訓読〕洞祖坐禪石の樣體泊(およ)び福浦の景致を圖出す

〔原文〕乞贊于余惠賜矣

〔訓読〕贊を余に乞て惠賜(けいし)せらる

〔原文〕又賦和歌乙篇

〔訓読〕又和歌乙篇を賦し

〔原文〕稱松島島中第一風致

〔訓読〕松島島中第一の風致と稱す

〔原文〕此島此時改觀云

〔訓読〕此の島此の時、觀を改むと云う